

# びわこ学園だより

発行責任者 理事長 山崎 正策  
編集責任者 法人事務局 田處 浩吉  
印刷 近江印刷株式会社

● 目 次 ●	
令和5年度創立記念講演報告	1P
令和5年度着任式	2P
Pick UP①	
滋賀県重症心身障害児者 ・医療的ケア児等支援センター開設	3P
令和5年度事業計画	4P~8P
令和5年度予算	9P
Pick UP②	
「天津市障害者自立支援協議会 「福祉の魅力発見プロジェクト」の紹介	10P~11P
協力ありがとう (R4年12月~R5年3月)	12P

## 令和5年度創立記念講演(創立60周年企画)報告

### 「最近の医療行政から見た障害福祉、医療、保健について」

講師 角野 文彦氏(滋賀県健康医療福祉部理事)



びわこ学園創立60周年を迎え、「この子らを世の光に」を継承しながら、「この子らとともに光輝く時代へ向けて」をテーマに、今年度の記念講演は「創立60周年記念企画」として公衆衛生行政に精通されておられる角野文彦氏(滋賀県健康医療福祉部理事・医師)に講師をお願いし、今後多くの方々と共に歩みを進めていく上で、びわこ学園が現在の事業を継続しながら今後求められる役割を一緒に考えていく機会となるよう企画しました。

角野先生には、「保健と福祉の連携」「滋賀県の小児在宅医療の取り組み」「地域包括支援システム」を柱にお話いただきましたが、中でも特に以下について強調されておられました。

**「医療を必要とするご本人への支援計画は、医療に偏った計画ではなく、福祉を踏まえた計画とすること」**

医療のニードがどんなに高くても、その人の生活全体を見たうえで「医療から福祉へつなぐような医療」が必要である。

**「現場感覚は現場に行くことで理解できること」**

現場の声は間違いない。直接ニードから事業へ繋がることから、現場で自由に議論された意見を是非伺いたい。個別に何うよりも組織的にまとめていただくことで具体的な事業により繋げやすい。

**【例】医療、福祉、行政等関係者が集って積極的な議論や意見交換を進めてきた任意の「ざっくばらん会」⇒滋賀県小児在宅医療体制整備事業(事務局:びわこ学園医療福祉センター草津)**



### 「連携」ではなく「融合」

地域包括ケアシステムとは、「地域のすべての人を対象に「自分らしく生活する場」であり、重症心身障害、医療的ケア児者を含めたまさにすべての「人」を対象とする。保健、医療、福祉を充実させていく上で、医療は地域包括ケアシステムの一部である。各役割を超えて、それぞれの「のりしろをどれだけ広げ」繋がる中で進められるか。

びわこ学園がこの間滋賀県から受託している小児在宅医療体制整備事業をはじめ複数の事業は、まさに現場の声やつながりが事業となったものです。

講演の結びでは糸賀先生のことばである「自覚者は責任者」となり、気づいたことがあれば知らん顔せず、自分ではできなくても繋げていくことの大切さと、障害のある方がたの生活をゆたかにするのに「この子らを世の光に」は現在にも通じることを話されました。

昨年の遠藤氏の講演に続き糸賀先生の思想を受け継ぎ、岡崎先生が目指された「ともに生きる」社会の実現を更に具体化していくためのヒントを角野先生のご講演からいただいたように感じています。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

(法人事務局事業企画部)

記念講演の動画と講演資料については、「びわこ学園ホームページ」からご覧いただけます。

